



18 風景

一面

中沢弘光

明治四十五年(一九一二)

油彩、キャンバス

四五・〇×六〇・〇

柔らかな光あふれる丘の斜面を描いた本作から、具体的な場所や季節を特定することは難しい。はっきりしているのは、本作が旧秩父宮家に伝来したこと、[Hinomitsu Nakazawa 1912]というサインにより、中沢弘光(一八七四―一九六四)の明治四十五年(一九一二)の風景画であるということだ。中沢は同年四月に制作のため奈良を訪れている。このときに制作された第一回光風会展出品作の《春の若草山》が宮内省買上になっており、描写内容からこれが本作に該当するかと考えられる。なお、制作時期はやや下るものの、本作を反転したような構図で景観が似通う《若草山スケッチ》(一九一五年、個人蔵)という作品があることもそれを裏付けている。

はじめ旧派系の洋画家に師事した中沢は、後に天真道場と東京美術学校で黒田清輝に学び、白馬会で頭角を現すことになる。白馬会の解散後は、山本森之助、三宅克己らと光風会を結成した。本作に見られる外光派の色彩表現と、柔らかな筆触を重ねたモチーフ描写は、明治後期における中沢の画風を特徴付けている。小品ながら、穏健で抒情的な風景表現が心地よい。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan